

2017(平成29)年度
熊本県聴覚障害者情報提供センター
事業報告書

熊本県聴覚障害者情報提供センター

〒861-8039 熊本市東区長嶺南2丁目3-2

熊本県身体障がい者福祉センター2F

TEL 096-383-5595 FAX 096-385-7821

URL <http://kumajou.jp>

Mail center@kumajou.jp

<目次>

1. ソフト制作事業	2
1) 聴覚障害者用映像の制作	
2) 映画等の字幕作成	
3) 「さかの映像祭」でグランプリ受賞	
4) 制作方法と利用形態	
2. 情報・文化事業	5
1) 字幕・手話付き映像ライブラリーとしての貸し出し	
2) 啓発・情報サービス	
3) 文化・学習	
3. コミュニケーション支援事業	9
1) 要約筆記者の養成・派遣	
2) 盲ろう者通訳・介助員の養成・研修	
3) 手話通訳者の派遣	
4) 要約筆記者の派遣	
5) 盲ろう者通訳・介助員派遣事業	
6) 情報機器の貸し出し	
4. 聴覚障害に係る相談	18
5. 電話リレーサービス	19
6. 遠隔手話通訳サービス	20
7. その他の事業	21
1) 情報提供センター運営委員会の開催	
2) NPO 法人全国聴覚障害者情報提供施設協議会事業への協力	
3) その他聴覚障害者団体関係機関行事の出席・講演等	
4) 火災時消防・避難訓練	
5) 会議室等の利用	
6) プロジェクトチームへの参画	
7) NICT との共同研究	
8) 大型画面を使った情報保障	
9) 福祉機器の展示	

1. ソフト制作事業

1) 聴覚障害者用映像の制作

① 独自番組の制作

- ・聴覚障害者用ビデオ番組「みるっく」の制作

平成6年から制作を始めた「みるっく」は、聴覚障害者への情報提供と、聴覚障害についての啓発を目的に毎月制作している30分の情報バラエティ番組である。利用方法は、当センターのビデオライブラリーでDVD・ブルーレイディスクとしての貸し出しに供するほか、熊本のケーブルテレビ(J:COM)の「熊本市民チャンネル」で週に3回放送されている。また、一般のテレビでもIPTVの規格で、障害者放送通信機構の聴覚障害者専用番組「目で聴くテレビ」でもオンデマンドでいつでも視聴することができる。今年度は以下の内容で制作した。

月	主な内容
4月号	・聴障ナウ！「熊本地震支援プロジェクト」 ・団体紹介／県ろう協青年部 ・ライブラリーとお知らせ ・みんなで写メろう！
5月号	・聴障ナウ！「手話通訳者養成講座」 ・ライブラリーの部屋(月曜男&かおりん) ・お知らせ ・みんなで写メろう！
6月号	・聴障ナウ！「遠隔手話通訳DVD制作」 ・しずのの主婦頑張るぞ！「料理(だご汁)」 ・ライブラリーとお知らせ ・みんなで写メろう！
7月号	・聴障ナウ！「県わかぎ40周年祝賀会」 ・ライブラリーの部屋(シーラカンス展示) ・ライブラリーとお知らせ ・みんなで写メろう！
8月号	・聴障ナウ！「遠隔手話通訳 本格的にスタート」 ・しずのの主婦頑張るぞ！「裁縫(ミシン)」 ・ライブラリーとお知らせ ・みんなで写メろう！
9月号	・サークル紹介／阿蘇わかぎ ・難聴あれこれ「NPO難聴協会」 ・ライブラリーとお知らせ ・みんなで写メろう！
10月号	・聴障ナウ！「九州ろうあ者大会」 ・熊本市ろう者福祉協会 ハイデルベルク訪問 ・ライブラリーとお知らせ ・みんなで写メろう！
11月号	・聴障ナウ！「聞こえのサポーター養成講座」 ・福祉機器紹介(屋内信号装置) ・ライブラリーとお知らせ ・みんなで写メろう！

12月号	<ul style="list-style-type: none"> ・聴障ナウ！「阿蘇市文化祭」 ・福祉機器紹介(目覚まし時計) ・ライブラリーとお知らせ ・みんなで写メろう！
1月号	<ul style="list-style-type: none"> ・聴障ナウ！「電話リレー学習会」 ・福祉機器紹介(聞こえを助ける機器) ・しずのの主婦頑張るぞ！「ケーキ作り」 ・お知らせ
2月号	<ul style="list-style-type: none"> ・聴障ナウ！「聴覚障害者成人式」 ・電話リレーサービス ・ライブラリーとお知らせ ・みんなで写メろう！
3月号	<ul style="list-style-type: none"> ・聴障ナウ！「熊本市 耳の日ふれあい'18」 ・遠隔手話通訳サービス ・ライブラリーとお知らせ ・みんなで写メろう！

- ・障害者放送通信機構「目で聴くテレビ」への番組協力

タイトル	分数
地方の手話 2本	10

- ・手話試験問題や講演を撮影・編集しDVDを作成

タイトル	分数
平成29年度手話奉仕員養成受講者テスト問題	4
平成29年度県ろう協手話通訳者認定試験	14
第66回九州ろうあ者大会 第45回全九州手話通訳者研修会	15
計	33

②放送用 県広報番組への字幕付加

熊本のローカル局放送の熊本県広報番組に、オンエア前に当センターでオープン字幕を付加したものを放送局に納入し毎週放送されている。情報提供施設としてこの方式での取り組みは全国唯一である。但し、短時間で正確な字幕作成・付加をするため高い技術を要求される。

タイトル	制作局	分数	本数	分数
県広報番組「くまモンしあわせ彩熊記」	RKK	5	33	165
県広報番組「くまモンしあわせ彩熊記」スペシャル	RKK	52	1	52
計			34	217

③テレビ番組への字幕付加（ビデオライブラリー用）

- ・平成20年の著作権法改正によって、対象者が聴覚障害者等であれば、情報提供施設で権利者の許諾なく映像に字幕等を付加・貸し出しが可能になっている。

- ・テレビ放送のキー局や準キー局で制作された番組にはほとんど字幕が付加されているが、地方局制作の番組には付加されていないため、その番組に字幕を付加しライブラリーとして利用を行った。

タイトル	制作	分数
週刊山崎くん「節分・市電沿線の旅」	RKK	49
週刊山崎くん「熊本あるある」	RKK	49
週刊山崎くん「阿蘇&人吉 日帰り温泉」	RKK	53
九州遺産「川の町に生きる～熊本市・川尻～」	RKK	50
平成 30 年熊本地震 DVD	RKK	47
熊本との絆を力に ～ホークス日本一奪還～	NHK	30
断層帯を行く	NHK	43
計		321

2) 映画等の字幕作成

字幕サークル「おむすび」が主体となり、熊本市現代美術館の月曜ロードショーで上映される映画の字幕を作成・映画スクリーン横に投影。

タイトル	上映場所	分数
ノラ	現代美術館	104
学び座	現代美術館	106
自決の日	現代美術館	109
計		297

3) 「さかの映像祭」でグランプリ受賞

1月20日に京都の同志社大学で開かれた第14回の『さかの映像祭』（聴覚障害者関係映像祭）に当センター制作の「国の選択無形民俗文化財『七夕綱』を作る～地域で生きるろう者～」を応募したところ大賞を受賞した。この作品は当センターが平成28年度に制作したもの。

4) 制作方法と利用形態

平成29年度は61タイトル（種類）、1,238分（約20時間）の映像制作・編集・字幕付加等を行った。

制作した61タイトルのうち48タイトル（制作数の約8割）は、テレビ局等で放送されていて、利用方法は、ビデオライブラリー以外でも大きく広がっている。

<制作区分>

	独自番組	字幕付加	字幕データ	計
タイトル数(本)	18	40	3	61
時間(分)	403	538	297	1,238

平成28年度制作実績 タイトル数72タイトル、時間数1,676分

2. 情報・文化事業

1) 字幕・手話付き映像ライブラリーとしての貸し出し

映像ライブラリーは、当センターのほか3か所で貸し出しを実施している。平成29年度は前年度に比べると増加した。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
情報提供センター	75	121	128	124	85	115	125	106	162	81	94	103	1,319
天草ライブラリー	48	67	70	58	43	73	70	73	80	33	22	59	696
聴障センター	3	7	8	0	0	3	0	0	4	6	0	3	34
ろう学校・寄宿舍	60	—	60	86	—	68	62	60	60	—	60	68	584
計	186	195	266	268	128	259	257	239	306	120	176	230	2,633

※ 平成29年度貸出総数は1,967タイトル（今年度は666タイトル貸出し増）

・利用者別貸出数

利用者別 貸出数	聴障者利用	健聴者利用	その他	計
	1,183	711	739	2,633
割合(%)	45%	23%	28%	100%

・制作機関別貸出用タイトル数

制作機関別	共同事業	情提センター	その他	計
タイトル数	346	859	99	1,304
割合(%)	26.5%	65.9%	7.6%	100%

※ 前年度まで、VHSテープまで含めたタイトル数にしていたが、実質DVDしか利用できないため、DVD(含BD)のタイトル数に変更した。そのため、3,800タイトルから1,304タイトルに減少している。

・制作機関別貸出数

制作機関別	共同事業	情提センター	その他	計
貸出数	676	1,506	451	2,633
割合(%)	26%	57%	17%	100%

貸出実タイトル数:844

・利用登録者数

登録者数	聴障者	健聴者	施設等	計
	436	259	67	762
割合(%)	57%	34%	9%	100%

利用登録者のうち、5年間利用がない人を今年度除いたことにより登録者数は少なくなっている。特に健聴の登録者の数が減少した。

登録者 762 人のうち、実際に利用した人の実数は 97 人（聴障者 44・健聴者 44・施設等 9）。ただし、ビデオ・DVD 貸出利用者以外のライブラリー利用者数は 1,822 人（ビデオ閲覧者を含む）

<ビデオ貸出人気ベスト 10>

情報提供センターのビデオライブラリーで利用が多いタイトルのうち上位 10 種。この中で当センターの制作タイトルが 6 タイトルある。

「みるっく」は、県内の聴覚障害関係団体（支部も含む）や地域手話サークルに無料配布し、集合で視聴してもらっているが、パッケージメディアとしての利用も多く不動の位置をしめている。

放送された番組に字幕を付加したものは 2 タイトルのみ。手話学習用が 5 タイトルあるが、情報提供センターが制作したものが上位 3 タイトルあり、楽しく手話を学ぶものの人気が高い。

順位	タイトル	制作機関	貸出数
1	くまもと聴障ビデオマガジン「みるっく」	情報提供センター	373
2	みるちゃんとくちゃん手話教室	情報提供センター	182
3	おてもの手話教室	情報提供センター	59
4	みんなで手話タッチ	情報提供センター	45
4	NHK みんなの手話	共同事業	35
6	なおこの気まま日記①	情報提供センター	31
7	日本テレビ開局55年記念番組ごくせん	共同事業	27
8	月曜男の手話漫談	情報提供センター	26
9	世界名作劇場 赤毛のアン	共同事業	21
10	初心者コース 1 手話通訳レッスン	全国手話通訳問題研究会	21

2) 啓発・情報サービス

①地域巡回講座

県内 7 か所で下記の巡回講座を実施した。

地 域	開催日時	会 場	内 容
県中央 (15名)	7月23日(日) 13:00～15:30	インダストリアル研修館 (宇城市松橋町)	・情報講座 遠隔通訳って何？ ・字幕手話 DVD の貸出
天 草 (9名)	10月1日(日) 13:00～15:30	天草市商工会館 (天草市本渡町)	・情報講座 遠隔通訳って何？
県 南 (13名)	1月28日(日) 13:00～15:30	代陽コミュニティセンター (八代市西松江城町)	・情報講座 遠隔通訳って何？ ・字幕手話 DVD の貸出
県 北 (19名)	2月18日(日) 13:00～15:30	玉名市文化センター (玉名市繁根木)	・情報講座 遠隔通訳って何？ ・字幕手話 DVD の貸出
菊池 (28名)	3月6日(火) 19:30～21:00	武蔵ヶ丘コミュニティセンター (菊池郡菊陽町光の森)	・情報講座 遠隔通訳って何？
阿蘇 (13名)	3月7日(水) 19:00～20:30	阿蘇市就業改善センター (阿蘇市一の宮町)	・情報講座 遠隔手訳って何？
球 磨 (24名)	3月14日(水) 19:30～21:00	下球磨消防署 (人吉市下林町)	・情報講座 遠隔通訳って何？

②センターの月刊情報紙の発行

情報紙“インカムくまもと”の発行（A4判 見開き4ページ）の毎月作成・配布。

- ・2017（平成29）年3月号で285号
- ・発行部数：1,000部、配布先：160か所

（県内の聴障者団体・支部、全国の聴覚障害者関係団体・施設、聾学校、難聴学級、公民館、図書館、福祉事務所などの県内の社会福祉関係施設、等）

③週刊インフォメール

聴覚障害者関係情報（お知らせ、字幕つき映画情報、行事など）を、登録された携帯電話等のメールアドレスに、センターのパソコンより週1～2回送信している。登録者は189名（聴障者138名、健聴者51名）

④ホームページの管理運営

契約プロバイダーのサーバーにホームページを開設し、情報提供センターの事業等の紹介を行った。原則的に半月に1度内容を更新し、必要に応じて随時更新、今年度は地震があったために被災聴覚障害者への支援についての内容を広くアップ。また、上記の週刊インフォメールの内容やビデオライブラリー目録もホームページ上で公開。さらに平成22年度から動画サイトのYouTubeに当センター制作番組を登録し、当センターのホームページ上でリンクさせ閲覧可能にしている。

- ・ホームページアドレス：<http://kumajou.jp>
- ・メールアドレス：center@kumajou.jp

平成29年度末でアクセス件数は、88,187。（週平均106件）

3)文化・学習

今年度は以下のセミナー等を開いた。

特に、ビデオライブラリーで開いている「ミニ手話教室」は、聴覚障害者が健聴者と楽しく意見交換できる場として毎回盛況である。

①くらしセミナー

熊本地震もあり、今年度は1回だけの開催。

開催日	テーマ	講師	人数
11月30日	遠隔手話通訳ってなに？	情報提供センター所長 小野康二	14

②おしゃべり手話サロン

ビデオライブラリーの部屋で、以下のテーマで話題提供者と共に手話を使ったおしゃべり会を開いた。

開催日	テーマ	人数
4月22日	避難所運営ゲームを体験！	8
5月21日	熊本城映画紹介	3
6月18日	「わたしとシーラカンス」	5
7月28日	ご近所さんと取り組む防災	7
8月12日	みんなで涼もう 私の怪談	10
10月23日	「福祉機器を体験してみよう！」	5
12月16日	おもちゃの病院のお話	6
1月15日	ウンسنカルタ	2
2月15日	折り紙で遊ぼう	11
3月24日	熊本地震を考える	3
計		60

③ミニ手話教室

ビデオライブラリー室で、手話初心者（健聴者・難聴者）とろう者が交流しながら手話を学ぶ教室。毎月第1～第3金曜の14時～15時。ライブラリー担当者が進行・指導している。

回数	開催日	テーマ	人数
1	4月7日	新しいことをしよう	19
2	4月14日	防災	14
3	4月21日	最近のニュース	15
4	5月12日	5月の行楽	7
5	5月19日	習ってみたいもの	13
6	6月2日	六月の草花	9
7	6月9日	梅雨	9

8	6月16日	食べてみたいもの	11
9	7月7日	夏の風物	10
10	7月14日	昼間の過ごし方	14
11	7月21日	冷蔵庫	13
12	8月4日	海水浴	11
13	8月18日	肝試し	18
14	9月1日	夏休みの報告	14
15	9月8日	失敗談	16
16	9月15日	フリートーク	12
17	10月6日	十三夜	18
18	10月13日	鉄道	14
19	10月20日	ハローウィン	19
20	11月10日	秋の夜長	14
21	11月17日	指を使って	11
22	12月1日	冬の大掃除	17
23	12月8日	冬至	11
24	12月15日	今年の反省は？	14
25	1月12日	冬のお薦めスポット	16
26	1月19日	ふるさと自慢	18
27	2月2日	身体を温めよう	16
28	2月9日	冬季オリンピック	17
29	2月16日	フリートーク	16
30	3月2日	健康法	14
31	3月9日	1・2・3の指を使って	17
32	3月16日	春の行楽スポット	10
計			447

④聴覚障害者作品の展示会（プチギャラリー）

ビデオライブラリー室で、聴覚障害者の作品等の展示会を行った。

開催期間	内容
6月18日～3月31日	樫田和美氏の木彫「シーラカンス親子」展示

3. コミュニケーション支援事業

1) 要約筆記者の養成・研修

①要約筆記者の養成

厚生労働省から示されたカリキュラムに沿い23回、計92時間の講座を実施。後半は手書きとパソコンコースに分かれて養成した。

・養成講座修了者：9人（手書きコース5人、パソコンコース4人）

・ 講座内容

講座日	教科名	学習内容
5月11日	聴覚障害の基礎知識	聞こえの仕組みと聴覚障害・聴覚補償
		聴覚障害者のコミュニケーション 中途失聴・難聴者の現状と課題
5月18日	特別講座	難聴者疑似体験・難聴者の体験談
		難聴者とのコミュニケーション体験・要約筆記体験
5月25日	要約筆記の基礎知識 I	難聴者運動と要約筆記の歴史
		要約筆記事業の位置づけ 通訳としての要約筆記
6月2日	日本語の基礎知識	日本語の特徴・日本語の表記 日本語の語彙と用法
6月8日	要約筆記の基礎知識 II	要約筆記の目的・要約筆記の三原則
		要約筆記の表記1
6月15日	要約筆記の実習	要約筆記の表記2
6月22日	話しことばの基礎知識	話しことばと書きことば 話しことばの特徴と活用
6月29日	要約筆記の実習	基本的な要約技術
7月6日	社会福祉の基礎知識 I	障害者福祉の概要と施策の現状 聴覚障害者の福祉施策の現状
	聴覚障害運動と手話	聴覚障害者の社会参加の実情
	社会福祉の基礎知識 II	熊本県の障害者福祉制度
7月11日	社会福祉の基礎知識 I	日本国憲法と基本的人権の尊重 社会福祉の理念と歴史
		障害者権利条約
7月20日	伝達の学習 I	コミュニケーション・情報保障の基礎理論
	伝達の学習 II	伝達実践技術実習
7月27日	要約の学習 I	要約の定義と意味、情報伝達における要約
	要約の学習 II	要約技術実習
8月17日	要約筆記の実習	要約技術実習
8月24日	チームワーク I・II	各コースの内容
8月31日	チームワーク II	各コースの内容
9月7日	演習	各コースの内容
	演習	模擬要約筆記(チームワーク)
9月14日	ノートテイク I・II	各コースの内容
9月21日	ノートテイク II	各コースの内容
9月28日	ノートテイク II	各コースの内容
	演習	模擬要約筆記(ノートテイク)
10月5日	チームワーク I	場面对応(テキスト下 P47・51 対応力の育成含む)
	ノートテイク I	利用者のニーズへの対応
10月12日	対人援助 I	中途失聴・難聴者の臨床心理 カウンセリング・対人援助の基礎理論
10月19日	現場実習	チームワーク現場実践実習
10月26日	要約筆記者のあり方 I	心構えと倫理・要約筆記者としての専門性
		派遣事業・今後の活動について (テキスト P42～43「幅広い関係含む」)

・パソコンコース

講座日	学習内容
6月8日	パソコン要約筆記とは 要約筆記の表記
6月15日	基本的な表記 単語登録 表記を考えた入力練習
6月29日	短く表現する技術 置換、文末処理の実技 共有情報を活用する
8月17日	復習と入力練習 ネットワーク接続・IPトークの設定
8月24日	復習 チームワークでの担当の役割
8月31日	交代の意味と方法・チームでの動き方
9月7日	チームワーク実習
9月14日	ノートテイクの方法と留意点
9月21日	ノートテイク実習
9月28日	ノートテイク実習 チームワーク実習

・手書きコース

講座日	学習内容
6月8日	三原則と表記のつながり 要約筆記の表記
6月15日	基本的な表記 文字間・行間を整える
6月29日	短く表現する技術・共有情報の活用
8月17日	略字略語等の復習 音源を用いての実習
8月24日	チームワーク実習・機器の組み立て 交代の役割
8月31日	復習 チームワーク実習
9月7日	チームワーク実習
9月14日	ノートテイクの方法・留意点
9月21日	ノートテイク実習
9月28日	ノートテイク実習 チームワーク実習

②要約筆記者指導者養成

要約筆記者養成講座の講師を担う人材を養成するために、社会福祉法人聴力障害者情報文化センターが実施する要約筆記指導者養成研修会（手書きコース）へ、要約筆記者を派遣し交通費・宿泊費等の一部補助を行った。

研修は、（1）7月7日～9日）、（2）9月8日～10日、（3）11月17日～19日で、会場はいずれも全国手話研修センター（京都）。

③要約筆記ステップアップ事業

要約筆記者・要約筆記奉仕員を対象に、要約筆記技術の向上のため外部より13講師を招き技術面の指導を行うと共に要約筆記者全国統一要約筆記者認定試験受験者のために試験対策

の学習会、さらに要約筆記者のあり方を考えるための研修会も実施した。

月日	時間	内容	講師	人数
6/25	13:30 ～ 16:30	報告「平成 28 年度の派遣状況について」 ディスカッション「要約筆記者の専門性とは」	情報提供センター 職員 水民喜代	27
12/17	10～12	報告「PC 要筆技術指導平準化検討事業」 ディスカッション「今後の活動で共有したいこと」	PC 文字通訳グループらん 会長 井上祐子氏	10
2/10	10～13	講演&グループディスカッション 「支援者としての専門性を高めるために」	情報提供センター 所長 小野康二	19
3/10	10～15	講義「UDトークによる情報保障の方法」 実習「UDトークで情報保障をやってみる」	長野県安曇野市登録要約筆記者 上林 玲子氏	14

④全国統一要約筆記者認定試験対策のための学習会

標記学習会をパソコン要約と手書き要約に分かれて各 2 時間 14 回開いた。受講生（手書きコース 3 名、パソコンコース 6 名）

⑤全国統一要約筆記者認定試験の実施

以下の要領で実施した。熊本県の合格者はいなかった。

実施日	平成 29 年 2 月 19 日	
会場	県身障福祉センター・情報提供センター	
コース別	手書きコース	パソコンコース
受験者	2	6
合格者	0	2

2) 盲ろう者通訳・介助員の養成・研修

①盲ろう者通訳・介助員の養成

盲ろう者と支援者の組織「熊本盲ろう者夢の会」の協力を得て、以下の内容で 13 回開催した。1 回に追記時間は 13 時～16 時の 3 時間。今年度の受講修了者は 10 人だった。

・講座内容

回	開講日	講座内容
1	9/5(火)	開講式・事務連絡ほか
		盲ろう者概論
2	9/12(火)	盲ろう疑似体験(盲ろうという障害を知る)
3	9/19(火)	視覚障害について
		聴覚障害について
4	9/26(火)	盲ろう者の日常生活とニーズ
5	10/3(火)	コミュニケーション実習(1) 手書き文字・筆記
6	10/10(火)	コミュニケーション実習(2) 音声

7	10/17(火)	コミュニケーション実習(3) 弱視手話・触手話
8	10/22(日)	「盲ろう者夢の会」の盲ろう者会員との交流
9	10/31(火)	コミュニケーション実習(4) 点字・指点字
10	11/7(火)	盲ろう通訳技術の基本
11	11/14(火)	盲ろう者への移動介助
12	11/21(火)	通訳・介助実習
13	11/28(火)	通訳・介助員の心構えと倫理
		派遣事業についての説明・閉講式

②盲ろう者通訳・介助者現任研修会

県委託事業として、現任研修会を開いた。

・現任研

	時間	内容	講師	人数
1/27 (土)	13:30 ～ 16:00	①平成 29 年度派遣事業報告 ②車いす介助 他の障害を併せ持つ盲ろう者支援	①情報提供センター 岡 康之 ②ヒューマンネットワーク熊本 代表 日隈辰彦 氏	8 名
3/27 (火)	13:30 ～ 15:00	①通訳・介助員派遣事業について ②通訳・介助員としての心構え	情報提供センター 岡 康之	5 名

③聴覚障害者向け字幕制作ボランティア入門講座

受講者は 3 人と少なかったが、うち 2 名が字幕サークルに入会した。

月日	時間	内容	担当
8月 20 日	13:30 ～ 16:00	「聴覚障害者の理解について」 字幕サークル活動紹介	情報センター所長 字幕サークル
9月 3 日		「聴覚障害者向け字幕とは」 音起こし実習	職員 字幕サークル
9月 17 日		音起こし実習 字幕文作成実習①	字幕サークル
10月 8 日		利用者の意見を聞く 字幕文作成実習②	聴覚障害者 字幕サークル
10月 22 日		作成した字幕について意見交換、映 画会の字幕制作について	職員 字幕サークル

3) 手話通訳者の派遣

・手話通訳者の派遣件数

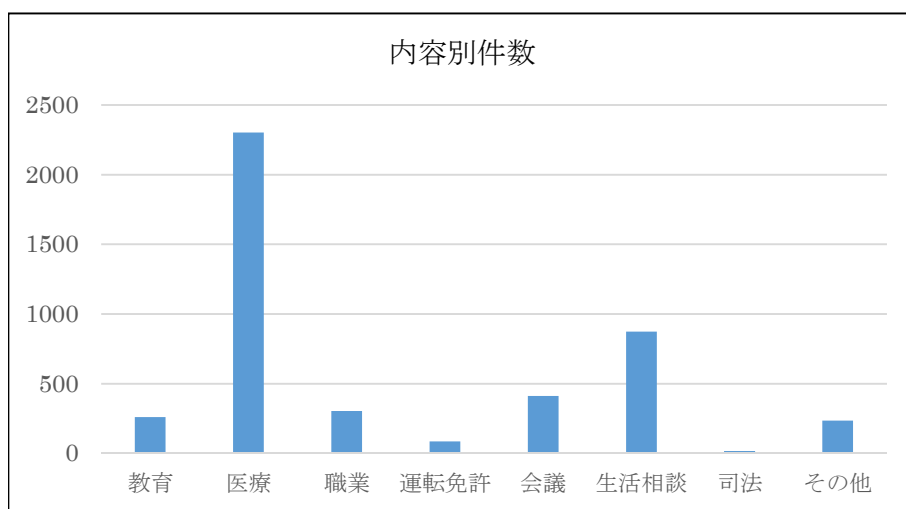
公的派遣（派遣事業）：4,484 件、団体等からの依頼派遣：約 1,000 件

・担当者の手話通訳派遣コーディネイト：3,601 件、

・前後のコーディネイト（打合せ・原稿入手・事前準備指導、通訳後の相談・反省等）

①派遣内容別件数

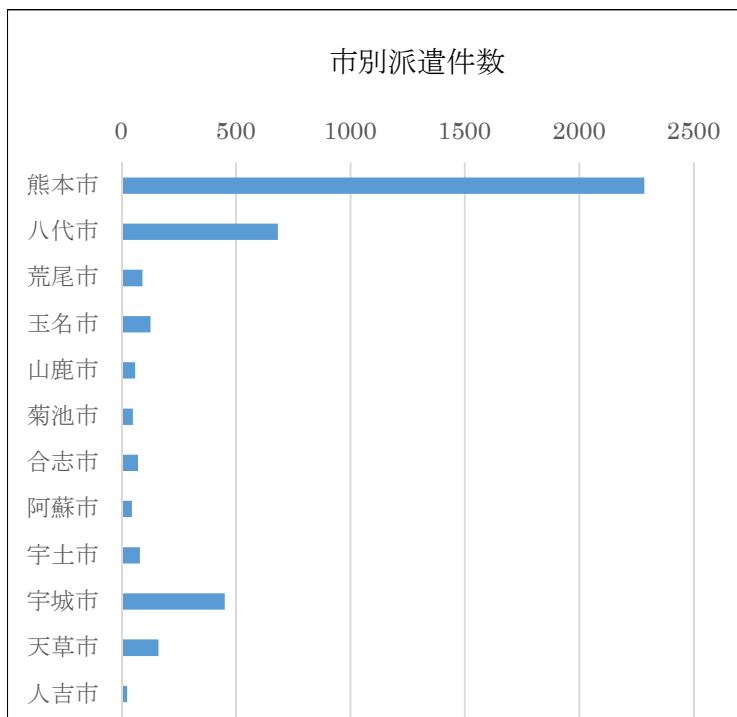
教育	医療	職業	運免	会議	生活相談	司法	その他	計
260	2301	303	86	411	873	16	234	4,484



②地域別派遣件数

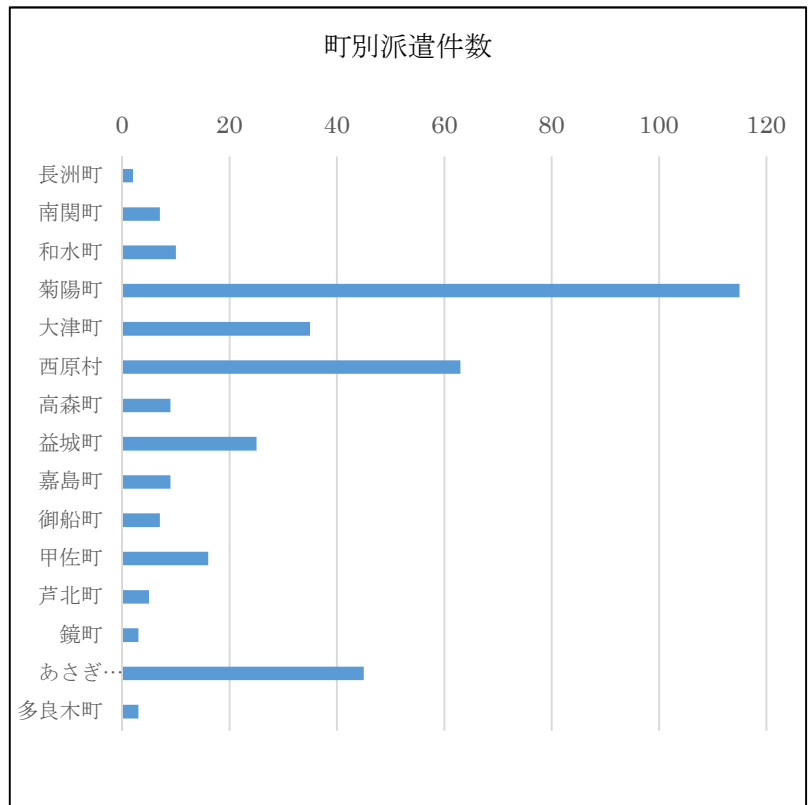
・市別手話通訳者派遣件数

熊本市	2284
八代市	683
荒尾市	91
玉名市	127
山鹿市	60
菊池市	49
合志市	72
阿蘇市	45
宇土市	81
宇城市	451
天草市	162
人吉市	25
計	4130



・町別手話通訳派遣件数

長洲町	2
南関町	7
和水町	10
菊陽町	115
大津町	35
西原村	63
高森町	9
益城町	25
嘉島町	9
御船町	7
甲佐町	16
芦北町	5
鏡町	3
あさぎ町	45
多良木町	3
計	354



4) 要約筆記者の派遣

・派遣総件数：520件（派遣事業以外も含む）

区分	派遣者件数	依頼件数
公費派遣件数	298	158
専門性の高い内容への派遣	19	5
企業・団体への派遣	203	69
計	520	232

・地域別件数（公的派遣のみ）

区分	派遣件数	依頼件数
熊本市	264	131
熊本市以外の市町村	34	27
計	298	158

・利用者数・活動者数

派遣利用者数：31人、支援者（活動者）数：31人（うち県外6人）

県内の支援者25人（PC12人、手書き13人）

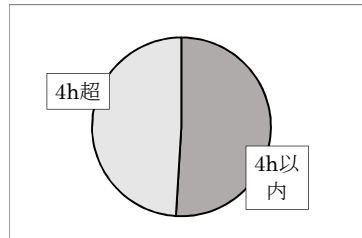
・公費派遣内訳（個人利用数・団体利用者数）

		区分	件数
個人利用		一般	190
		難聴生徒	12
団体利用		難聴協会	30
		行政	66
計			298

・活動時間

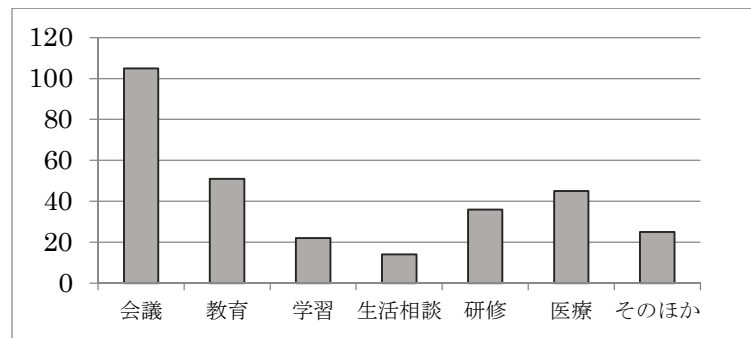
4時間以内：152件

4時間超：146件



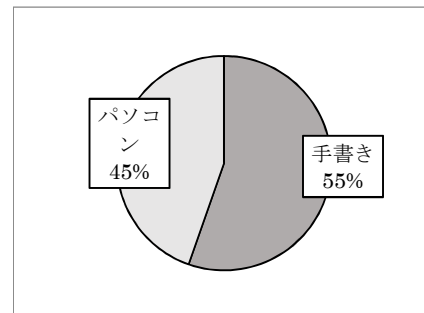
・内容別件数

区分	件数
会議	105
教育	51
学習	22
生活	14
研修	36
医療	45
その他	25
計	298



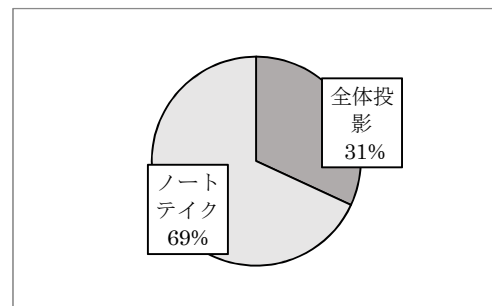
・要約筆記入力方法別

方法		件数	計
手書き	ノートテイク	131	165
	全体投影	34	
パソコン	ノートテイク	72	133
	全体投影	61	
計			298



・要約筆記送出方法別

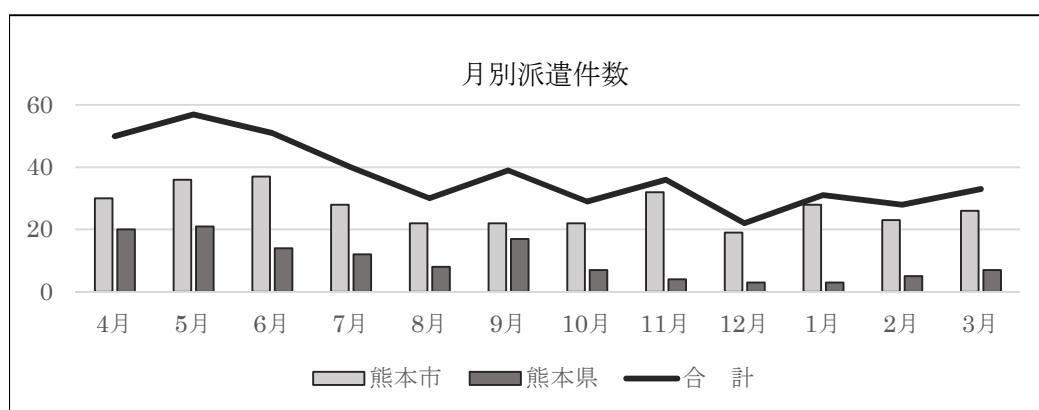
方法		件数	計
全体投影	手書き	34	95
	パソコン	61	
ノートテイク	手書き	131	203
	パソコン	72	
計			298



5) 盲ろう者通訳・介助員派遣事業

・派遣事業件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
熊本市	30	36	37	28	22	22	22	32	19	28	23	26	325
熊本県	20	21	14	12	8	17	7	4	3	3	5	7	121
合計	50	57	51	40	30	39	29	36	22	31	28	33	446



・利用者および活動者数

盲ろう利用者：13人、通訳・介助員実活動者数：17人（県外2人を含む）

	利用者	通訳・介助員
熊本市	9	9
熊本県	3	8
計	13	17

・活動時間数

時間	1	2	3	4	5	6	7	8	計	8h超
熊本市	65	48	54	71	13	14	8	52	325	37
熊本県	6	22	28	13	6	6	20	20	121	17
計	71	70	82	84	19	20	28	72	446	54

6) 情報機器の貸し出し

聴覚障害者のための情報保障や、聴覚障害関係研修会等で使用する機器を聴覚障害当事者椰子園関係者へ貸し出した。

・貸出機器種類

機器名	疑似体験セット	デジタル補聴機器	スクリーン	福祉機器	プロジェクター	他	計
貸出数	102	18	31	16	24	66	257

疑似体験セットの利用が急激に伸びている。他の機器の利用も増加。

デジタル補聴機器とは「ロジャー」セットで、難聴者の会議でよく使われた。

・情報機器の貸出相手

対象	ろう協	難聴協	聾学校	普通学校	支援団体	個人	他	計
件数	6	13	6	5	24	5	13	72

4. 聴覚障害に係る相談

相談の内容はいくつかに分類できる。

- ①聴覚障害によって生活上支障をきたすため、その軽減方法の相談。(例)聞こえを補う機器はあるのか、どんな福祉制度を利用すればいいか等。
- ②聴覚障害者の生活に密着した相談。就労や家庭での問題、住居についてなど、一度ではすまず継続した支援が必要なもの。
- ③ICT 機器の入手や操作に関わるもの。聴覚障害者の中で、ICT を活用した情報やコミュニケーションが増加していることを物語っている。
- ④心の問題を抱える聴覚障害者の相談。これも継続した支援を必要とし、かつ高度の専門性が求められる。

これらのうち、特に④に関して、熊本にはこの問題を扱える社会資源がほとんど見当たらない。現在、「一般社団法人日本聴覚障害者ソーシャルワーカー協会」の協力を得ながら相談を進めているが、熊本にもキチンと対処できる社会資源の創出が求められている。

根本的な問題として、相談は情報提供施設の機能の一つだが、その位置づけが曖昧で、専任の相談員が雇用できずない。そのため他の業務との兼任なり十分な支援の取り組みができないという問題がある。

・相談内容別件数

ICT 相談	ケー ション 情報 コミュニ ニ	学 習 ・ 研 修	生 活 相 談	職 業 相 談	福 祉 制 度	盲 ろう	き こ え	団 体 運 営	そ の 他	計
29	9	11	69	8	3	2	3	2	4	140

・相談者

ろう者	難聴・中失者	盲ろう者	健聴者	その他	計
65	17	38	18	2	140

・相談方法

形式	電話	訪問	来所	他	計
件数	12	21	97	10	140

5. 電話リレーサービス

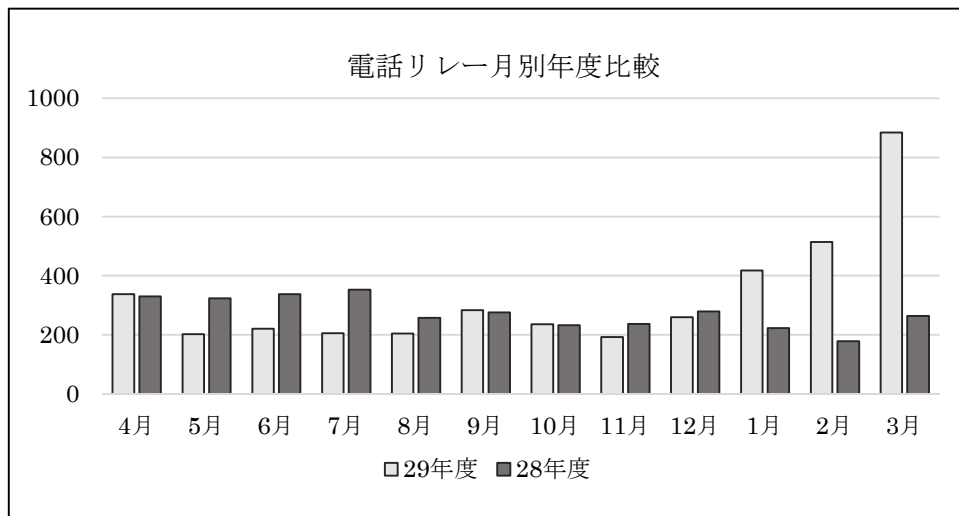
日本財団の電話リレーサービスを情報提供センターで実施している。

熊本でのサービス時間は、平日は9時～18時、土・日・祝日は9時～17時

(休み：水曜日・年末年始) 利用総件数 3,290 件。

・月別利用数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
29年度	337	202	220	205	204	283	236	192	260	418	514	885	3,956
28年度	337	202	220	205	204	283	236	192	260	418	514	264	3,290



年度途中から電話リレー専用システムの仕様が変更され、熊本でも多く使われている iOS 系の端末での利用ができなくなった。その後 1 月から iOS 端末でも利用可になり、それと共に急激に利用が増加した。

また、電話リレー仕様が変更され、3 月からは専用システム以外は使用不可になった。

・リレー方式別利用件数

使用ソフト別利用件数

方式	利用件数	割合
手話通訳によるリレー	2,611	66%
文字通訳によるリレー	1,345	34%

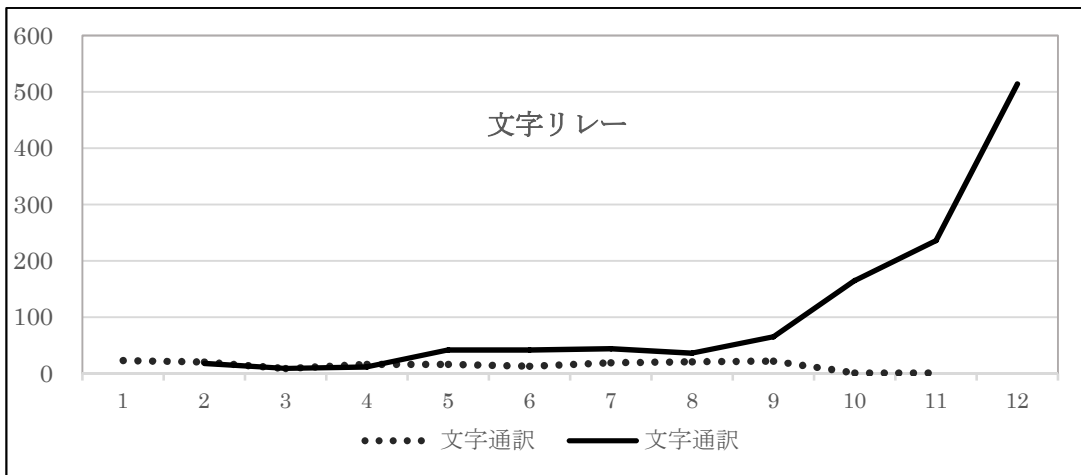
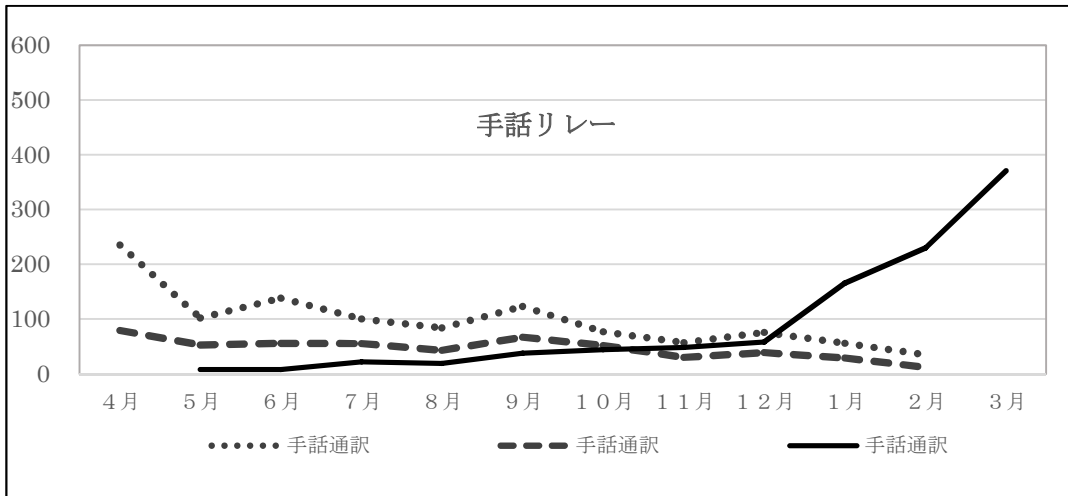
	利用件数	割合
FaceTime	1,083	27.4%
Skype	677	17.1%
専用ソフト	2,196	55.5%

・通訳方法別・通訳システム別内訳

手話通訳			手話 計	文字通訳		文字 計	合計 総利用数
FaceTime	Skype	専用システム		Skype	専用システム		

1,083	515	1,013	2,611	162	1,183	1,345	3,956
-------	-----	-------	-------	-----	-------	-------	-------

・手話及び文字リレーのソフト別内訳



・電話リレーサービス担当者会議

電話リレーオペレーター（通訳者）の情報交換・資質向上のための会議を開いた。

7月17日、12月28日

6. 遠隔手話通訳サービス

2017（平成29）年度から2年間、モデル事業として熊本県が遠隔手話通訳サービス事業を開始し法人に委託された。それを受け、法人本拠の聴障センターと情報提供施設センターに担当者を置き事業を実施した。また事業実施委員会を設け定期的に協議した。

・月別利用数

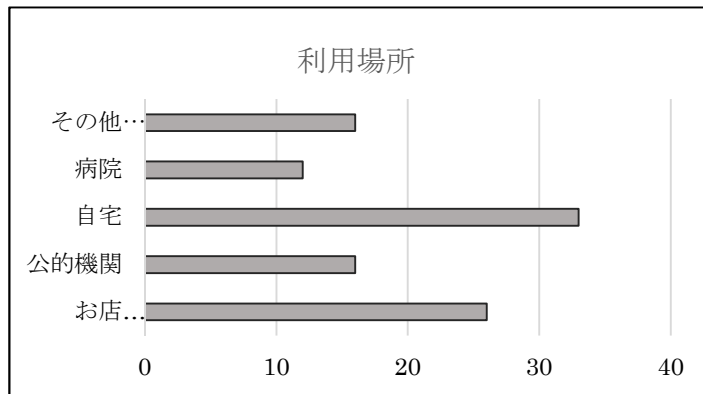
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
情報センター	6	6	24	12	6	9	6	6	9	6	0	2	92

聴障センター				0	3	3	1	1	3	0	0	0	11
計	6	6	24	12	9	12	7	7	12	6	0	2	103

・利用場所及び内容

利用場所	件数	主な内容
お店 (銀行含む)	26	お店(店員)とのやりとり
公的機関	16	相談時及び手続きのやりとり
自宅	33	来客や親戚との会話 訪問業者とのやりとり
病院	12	受付・会計・診察時のやりとり
その他 (介護施設や職場)	16	施設職員とのやりとり 職場でのやりとり

・利用場所グラフ



7. その他の事業

1) 情報提供センター運営委員会の開催

情報提供センターの運営に当事者・関係者の意見を反映させるため、情報提供センター運営委員会を設け、委員会を開催した。協議内容は、平成 29 年度の事業中間報告を中心に、現在業務の中で大きなウエイトを占めつつある電話リレーサービスの現状・課題・今後の方向について時間をとって話し合った。

- ・運営委員会：3月27日（火）14時～16時 情報提供センターふれあいシアター

<運営委員会出席者所属団体>

熊本県ろう者福祉協会、熊本県難聴者・中途失聴者協会、熊本県聴覚障害者（児）親の会、

熊本県手話サークルわかぎ、要約筆記サークルひまわり、パソコン文字通訳グループらん、
ヒューマンネットワーク熊本

(欠席：月出・長嶺地区児童民生委員、熊本県手話通訳問題研究会)

2) NPO 法人全国聴覚障害者情報提供施設協議会（全聴情協）事業への協力

全聴情協の以下の事業に参加・協力した。

月日	内容	場所
6/3	全国ろうあ者大会に全聴情協来賓として出席	福岡市
6/7	全聴情協理事会	茨城県水戸市
6/8.9	全聴情協総会・大会	茨城県水戸市
7/24.25	情報メディアに関する専門委員会	岡山県聴覚障害者センター
8/31.9/1	情報メディアに関する専門委員会	神奈川県聴覚障害者福祉センター
10/10	次年度の電話リレー事業について協議	厚労省
10/27	情報メディアに関する専門委員会	熊本県情報提供センター
10/28.29	全聴情協 DVD 制作	熊本県情報提供センター
11/8.9.10	ソフト制作担当職員研修会	岡山県聴覚障害者センター
12/7.8	全聴情協第6ブロック施設長会議	沖縄聴覚障害者情報センター
1/15	全聴情協理事会	京都市聴言センター
3/14	全聴情協理事会	京都市聴言センター

3) その他、聴覚障害者団体および関係機関行事への出席・講演等

月日	内容	場所等
7/3	熊本聾学校評議員会	熊本聾学校
7/8	聴覚障害の理解について	熊本県社会福祉士会
7/20	全聴情協意思疎通支援研修会で講演	京都市聴言センター
7/28	防災型コミュニティスクールに係る学校運営協議会	熊本聾学校
9/23	難聴協会 聞こえのサポーター養成講座で講演	アイポート
10/8	聴覚障害者災害救援専門ボランティア講座で講演	岡山県聴覚障害者センター
10/21	災害時の聴覚障害者の状態について講演	東京情報文化センター
11/12	難聴協会 聞こえのサポーター養成講座で講演	インダストリアル研修館
11/25	熊本地震を踏まえて防災について講演	千葉市聴覚障害者センター
12/16	情報提供センターの歴史について講演	県ろう協青年部
1/14	聴覚障害について	県視覚障害者協会
1/20	電話リレー・遠隔通訳について	神奈川県聴覚障害者センター

2/24	熊本地震での聴覚障害者と支援活動について講演	兵庫県聴障情報センター
3/7	熊大要筆者養成講座で聴覚障害について講演	熊本大学
通年	NICT の音声認識アプリ実証実験協力	当センター

4) 火災時消防・避難訓練

当センターが入っている県身体障害者福祉センターの施設全体の消防訓練に参加し、聴覚障害をもつ職員及び利用者に視覚的手段を使って通報し、避難訓練を実施した。(12月21日、3月5日)

5) 会議室等の利用

部屋名	会議・研修室	ふれあいシアター	コミュニケーションルーム	他	計
利用回数	158	100	40	1	223
利用人数	1,175	1,065	43	7	2,290

・情報提供センター年間利用者総数

利用方法	部屋利用	ライブラリー利用	機器利用	相談	計(人)
人数	2,290	1,822	257	112	4,481

6) プロジェクトチームへの参画

4月16日の本震後に聴覚障害者支援対策本部が立ち上がり、情報提供センターも1機関として参画し、被災聴覚障害者のための支援活動を担った。情報提供センターとして、対策本部メンバー用メーリングリストの開設、対策本部へのテレビ電話システムの設置等、情報共有・コミュニケーション支援を中心に活動を行った。

7) NICT との共同研究

NICT(国立研究開発法人 情報通信研究機構)の音声認識技術を聴覚障害者とのコミュニケーションに役立たせるために、災害時の情報コミュニケーションで使われることばを収集し提供した。

8) 大型画面への聴覚障害者情報保障

聴覚障害者が多く集まる場では、手話・文字等を大きく映し出すことが求められる。今年度は、「全九州ろうあ者大会」(県立劇場)、県社会教育課が開く「子ども人権集会」(パークドーム)、「熊本大学卒業式」(県立劇場)で実施した。

9) 福祉機器の展示

ビデオライブラリー室に展示していた聴覚障害者用福祉機器、情報機器が熊本地震により破損し使えなくなったことと、機器そのものが陳腐化したことで、最新の福祉機器・情報機器に入れ替えた。また実際手に取って試用できるよう専用スペースを作り展示している。

以上